

優秀賞

ちよつとだけ：

峡田小学校 六年 小川原 茉那

やなぎ田先生こんにちは。やなぎ田先生はちよつとだけ何かできたことありますか。私は妹と弟がいるのでちよつとだけのことはたくさんあります。

このお話はなっちゃんの家になっちゃんが生まれて、なっちゃんがママに何かやってほしくてたのもうとするとママは赤ちゃんのお世話をしているなっちゃんが自分です。いろいろなことにチャレンジする物語です。

私の家は弟が一才でお母さんはいそがしいです。だから「ちよつとだけ。」というこの本を読んで「茉那もお母さんがいつもやっていることで、できることがないかな。」と、考えました。そして朝ごはんならつくれるかも

しれないと思って朝ごはんをつくりました。パンを焼いて、オムレツをつくって、飲み物を入れてとやるのがたくさんあって大変でした。やっぱりお母さんはこんな大変なことを簡単そうにできてすごいなと見直しました。やなぎ田先生もお母さんのやっていることをまねしたことがあると思います。だから私のお母さんを見直した時の気持ちも分かると思います。

あと、私は一番上のお姉ちゃんなのでお母さんにくっつくたくてもなかなかくっつきません。でもなっちゃんと同じように妹と弟にちよつとだけがまんしてもらったことがあります。私はやたらにお母さんにくっつきたくなることがあります。だからその時妹や弟にお父さんにくっついてもらって、私はお母さんにくっつきます。やなぎ田先生はやたらとお母さんにあまえたくなったことはありませんか。

私はこの本を読んでお姉ちゃんになったなっちゃんも
ちよつとだけチャレンジしたり、時にはあまえたりして
いたので、私もなっちゃんと同じようにあまえすぎない
で、たくさんすることにチャレンジしようと思いました。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

小川原さんの手紙は、とても楽しく読みました。

小川原さんは三人きょうだいが一番上のお姉ちゃんなので、絵
本『ちよつとだけ』のお姉ちゃんのなっちゃんの気持ちがよくわ
かるんですね。なっちゃんはまだ二、三歳くらいだけれど、小川
原さんはもう小学校六年生だから、朝ごはんをつくるお手伝いま
でできたんですね。でも大変ですよ。

そうすることで、お母さんを見直したというのは、とても立派
です。やっぱりお姉さんらしいですね。

ぼくは六人きょうだいが一番下でしたから、小川原さんとは逆

ですね。でも、ぼくが小学生だったころは、きょうだいみんな
で家事を分担してやるのがあたりまえだったので、ぼくは毎朝、
田舎の家の台所の土間や家の前の掃除をしたり、下校後はお母さ
んの手内職の手伝いをしたり、十二歳も上の兄が開いていた古書
店の店番をしたり、薪を燃やしてわかす風呂の薪を燃やす役目を
したりしていました。野菜畑で野菜を育てることも少しやりまし
た。時代が七十年前も前でしたし、田舎の町だったので、生活のス
タイルが今とはずいぶん違っていました。でも、母も兄たちも姉
たちも、優しくかったから、どんなことでも楽しかったですよ。

時々、お母さんにくつつきたくなるって、素直ですね。そのと
きは、妹や弟にはお父さんにくつついてもらって、いいアイデ
アです。いくつになっても、お母さんに時々くつつくのは、恥
ずかしいことはありません。時には、きょうだい三人一緒にお
母さんに抱きついたら、面白いかもね。

家族のあたたかい雰囲気がよく伝わってくる手紙です。ありが

